

P2-037

特別支援学校で医療的ケアを担う教員の役割および看護師との協働に関する認識

山本 裕子

京都光華女子大学健康科学部 看護学科

【目的】

平成23年に特別支援学校は医療的ケアを行う事業所として位置付けされた。学校長を中心に校内に医療的ケアを運営する協議会等を設置し、教育的、医療的管理体制の維持向上に努めている。本研究では、特別支援学校で医療的ケアを担う教員を対象とした教員の役割および看護師との協働に関する認識を明らかにする。

【方法】

特別支援学校で医療的ケアを実施している教員を対象とし、平成27年7月、A都道府県内の特別支援学校2施設の協力を得て対象者に半構造化面接を行った。調査内容は、学校で医療的ケアを行う戸惑いや悩み、やりがい、教員の役割、看護師との協働とした。分析方法は、承諾を得てICレコーダーに録音し面接内容を逐語録に起こし、KJ法を参考に質的帰納的な分析を行った。本研究は、立命館大学「人を対象とする研究倫理審査委員会」の承認を受けて行った。

【結果】

調査対象者は2名、医療的ケア実施年数が3年と10年である。インタビュー逐語録の中で切片化したラベルの総数は130、分類された大項目数は4、中項目18、小項目36であった。大項目は〔医療的ケアに関わる戸惑い〕、〔医療的ケアを通してのやりがい〕、〔医療的ケアに関わる学校での教員の役割〕、〔関係者間の協働関係〕が抽出された。教員は医療的ケアをミスしないことのプレッシャーと、特定行為以外のケアの対応に戸惑っていた。一方で、児童生徒の成長を感じながら生き方に関わる教育へのやりがいを感じていた。教員は学校での役割を、医療的ケアの知識と技術を修得し、看護師との連携により児童生徒が意欲的に学習に臨める環境や身体を快の状態に整えること、自立心を身につけていく援助を行うことを捉えていた。看護師による医療的ケアの専門的知識とケアの提供が教員に安心感を与えていた。また、教員は児童生徒や保護者への思いに寄り添いながら地域で生活できる準備を進めていき、保護者に教育内容の理解を図る必要性を感じていた。そのためには保護者と看護師との関係性が重要と捉え、その関係性が保護者と担任との関係へも影響すると認識していた。

【考察】

教員は日々の実践のなかで戸惑いを抱きながらもやりがいを感じ、その過程で役割と関係職種との協働関係を構築している。安心・安全な学校教育を保障するには、看護師との情報共有と連携が欠かせない。また卒後の進路に向けて、教育、医療、福祉、労働等の関係諸機関が連携して継続的な支援が必要である。

P2-038

特別支援学校における医療的ケアの支援システム作りーA校における医療的ケア関係者の連携の特徴把握から課題の明確化までー

勝田 仁美¹、二宮 啓子²、丸山 有希³、
内 正子³、岡永 真由美²、山本 陽子²、
萩岡 あかね²

¹兵庫県立大学看護学部²神戸市看護大学³神戸女子大学看護学部

【はじめに】

特別支援学校において医療的ケアを実施するために看護師が配置されているが、教諭と看護師との連携の難しさ、看護師への支援の不足、労働環境などの課題が挙げられている。しかし、学校によって課題には特徴がある。本研究の目的は、A校の医療的ケア関係者の連携の現状や特徴を把握し、課題を明らかにすることであり、それらの結果に基づきA校の実態に即した支援プログラムを立案する基盤とするものである。

【研究方法】

対象：A特別支援学校の管理職・看護師・教諭・養護教諭。
方法：1. 看護師・教諭・養護教諭を対象にした無記名自記式質問紙調査：研究者作成の質問紙（学校で担っている役割と困難と感じていることなど）。2. グループインタビュー：(1) 管理職、医療的ケアコーディネーター（教諭）、養護教諭対象に、医療的ケアの実施体制・看護師への要望等、(2) 看護師対象に、質問紙調査の結果を踏まえ、医療的ケアの実施上の困難、支援状況等と問いについて。研究代表者の所属大学の倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

A校は、教員が医療的ケアを実施し、常勤看護師が1名いる。1. 質問紙：回収率は、教諭（23名、75.7%）、看護師（8名、100%）、養護教諭（1名、100%）。ケアについては教諭は看護師が十分に役割を果たしていると回答したものが12～17名あり、専門知識の提供を行っているかについての認識にはバラツキがあった。自由記載では、健康状態の判断で看護師と教員とのズレがある、教員が行いたい学習活動を看護師から制限されることがある等が、改善したいこととして挙げられた。2. (1) 管理職等へのインタビューでは、安全を守りつつそれぞれの専門性のすみわけが難しいことがあり、お互いが話し合う時間が持てていない等が出た。(2) 看護師へのインタビューでは、児の体調不良時に1人の看護師が別室対応している現状に疑問を感じている等が挙げられた。

【考察】

A校の特徴として、看護師は役割を果たしているが、教諭と看護師との連携には、お互いが困難感を持ち、話し合うことができていない現状等が見えてきた。それらの結果に基づき、A校のための介入プログラムとして、教職員の共通理解を可能にする合同研修を企画し、学校における看護師の役割の確認や、ともに事例検討を行う機会を提供する支援などが有効であると考えられる。科学研究費助成事業基盤研究C（課題番号16K12162）を受けて実施した。